

「西条市訪中代表团」が中国を訪問

西条市・保定市友好都市交流事業の一環として、伊藤市長・楠議長をはじめとする21名が9月25日から29日まで、また藤田副市長・児玉副議長をはじめとする22名が10月23日から27日までのそれぞれ5日間、河北省保定市をはじめ、大連市、北京市を訪問しました。

▲保定市人民政府・人民代表大会での記念撮影



今回の訪問は、保定市との友好関係を一層深めるとともに、東日本大震災に起因する風評被害を友好都市を通じて払しょくしていくことをはじめ、地場産品等の中国における市場開拓、中国人観光客の誘致の可能性についての調査などを目的としています。

保定市では、東日本大震災後ますます重要が高まっている太陽光や風力などの新エネルギー産業の分野で、今や中国を代表する集積地となっている「ニューハイテク産業開発区」、日本語学科もある「河北農業大学」などを訪問。また保定市人民政府や保定市人民代表大会の表敬訪問で、李光耀人民代表大会主任をはじめとする政治、経済、観光、農業など幅広い分野の指導者

と会談し、友好交流を促進することができました。

北京市では日本大使館、日本政府観光局北京事務所を訪問し、現地日系企業関係者も交えて、中国人観光客の誘致や地場産品の市場開拓などについて意見交換を行いました。

今回の訪中を契機に、これまで築き上げてきた保定市との友好交流の絆を活かして、経済、都市建設、科学技術、農業等の幅広い分野で目覚ましい発展を遂げている中国に向けた施策を打ち出せるよう今後も取り組んでいくこととしています。

代表団の来訪は地元の新聞「保定日報」で報じられ、その内容は保定市ネットニュースの号外として以下のように掲載されました。

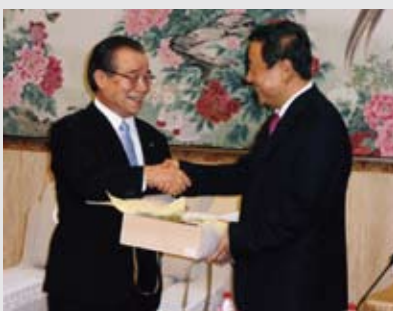
～www.0312.net 号外より～

9月27日、西条市長伊藤宏太郎団長、議長楠學副団長をはじめとして行政、議会、産業関係者の一行21名が我が市を友好交流のため訪問し、李光耀保定市人民代表大会主任と会見した。

李光耀主任は代表団の訪問に歓迎の意を述べ、近年保定市が新エネルギー、自動車、電子機器類などの優秀な製造産業を促進し、生産拠点となっていることを説明した。

西条市は農業、工業、製造業の発展都市であり、両市の生産品の貿易、工業、農業の領域でさらなる交流を深めれば、両市の繁栄が実現する。

伊藤宏太郎市長は、この訪問で保定市の経済と社会発展の状況を詳しく視察し、双方が理解を深め、多くの領域でさらに協力し、共に発展することを希望すると述べた。



▲保定市人民代表大会常務委員会 李光耀主任と



▲外壁に太陽光電池をつけた電谷錦江国際ホテル



▲太陽光パネル製造会社「英利綠色エネルギー」の若者と



▲保定市の大通りの様子